

Tamanga Ran! Vol.3 2016.1.7

青年海外協力隊 マラウイ派遣 本田 藍

あけましておめでとうございます！無事にマラウイで新年を迎えることができました。本年もどうぞよろしくお願いたします。11月に私の実家がある福島で初雪が降ったと聞き、そろそろ第3号を仕上げたいなーと思っていたのですが、気づいたら年が明けてしまいました。今年はいく少スペースアップしてニュースレターを書けるように頑張りたいです。

マラウイでは12月から雨季に入り、1日に1,2時間、スコールのような雨が降るようになりました。雨が降れば気温は少し下がりますが、日が出ている時は相変わらずの暑さです。暦の上ではもう師走、と思いつつも、やっぱり冬があつての12月。大きな変化のない気候・気温の中で過ごしていると、時間の感覚が麻痺してきて、クリスマスや年末年始も、全く実感がわかないまま過ごしました。順調にアフリカタイムに順応してきている今日この頃です^^*



*家の裏山からの景色。遠くの方は隣国ザンビアです。

学校では12月の18日に1学期が終了し、冬休みに入りました。クリスマスと年末年始は、他の隊員と南部にあるマラウイ最大の都市・ブランタイヤと、北部のマラウイ湖を一望できる避暑地・リビングストニアに旅行に行き、リフレッシュすることができました。この旅行もハプニングもありのとても楽しいものとなったので、改めて詳細をお伝えできればと思います！！

◎先日驚いたこと

マラウイは国民の90%が農家であるにも関わらず、灌漑農業があまり普及しておらず、作物の成長は大きく雨に左右されるので、雨季の遅れはマラウイにとって死活問題です。赴任して後すぐに、庭の花壇で野菜を育てはじめ、夜雇っているガードマンに朝晩水やりをお願い

しました。数週間後、芽は出たものの、苗に元気がない。もう一度彼に毎日朝晩水をあげてね、と伝えました。

実は、マラウイでは雨季が来ればほぼ毎日雨が降るため、「その時期になれば野菜は勝手に育つもの」と考えられていたようなのです。その後も何度か水やりを忘れないよう伝え、ようやく習慣化し、野菜も順調に育ってきました。ただ、種まきも任せてしまったため、何をどこに植えたのか、何が育っているのかいないのか、わからない状況です(笑)何ができるかお楽しみ!ということで収穫出来たらウォッチマンと一緒に食べようと思っています^^♪



*私の家とキチ。キチも生後7か月、大きくなりました。相変わらずの甘えん坊ですが、夜は番犬として働いてくれています。

◎今月の活動 ~マラウイにも遠足があった！

少し前になりますが、11月7日に活動先の学校の遠足に行ってきました！行先はマラウイの国土の1/3を占め、ヨーロッパの人々にリゾートとして密かに人気のあるマラウイ湖。その湖畔にあるsalima(サリマ)という街に行ってきました。対象は、5~8年生の希望者、かつ4500MK(マラウイクワチャ)が払える家庭の子供のみ。マラウイでは新卒の先生の初任給が52000MKなので、4500MKといえば、結構な額です。なぜこんなに高いのか、生徒全員がいけないのはかわいそうな気もする…とは思いつつも、ここは途上国。学校の予算は多くありません。当日集まったのは生徒55人と、先生9人。

遠足前日まで準備が整わず、来週に延期と言われていましたが、前の晩突然校長先生から電話があり、明日行くとのこと。急いで準備をし、当日、チャーターしたバ

ス2台（日本製の幼稚園バスとハイエース）で出発。どんなにぎゅうぎゅうで立ちっぱなしでも、自分の膝の上に友達が乗っていても、誰も文句も言わず、終始はしゃいで楽しそうな子供たち。湖を見るのが初めてという子も大勢いて、本当に素敵な笑顔で楽しんでいました。私は事務所より、住血吸虫症感染予防のため入水することは禁止されているので、終始カメラマンをしていました。これはマラウイあるあるなのですが、カメラを見ると「撮って撮って〜！」と子供たちが寄ってきますが、いざカメラを向けると真顔になる子供たち。「笑って〜」と言ってもなかなかキメ顔（真顔）を崩してくれませんが、撮影後に写真を見せた瞬間、大笑いが起こります。子供たちの笑顔を撮るのになかなか苦労しました(笑)



*左：湖と Std.8 の女の子たちと。右：往路のバスと昼食帰り道、事件が起きました。ドライバーの運転免許証がない…。実は、往路で警察の検問を通った際に定員オーバーを指摘され、免許証を取り上げられていたようなのです。そして帰り道、罰金を払って免許証の返却を求めたところ、土曜日だったためにすでに警察署の担当部署が閉まっており、返却できないと。バスには遊び疲れてくたくたになった子どもたち、なかなか取り合ってくれないポリスたち、マーケットで買い物を始める先生たち……突っ込みたいことが山ほどありましたが、ああでもないこうでもない押し問答をして1時間半、最終的に近所に住んでいる担当警察官が鍵を持って現れ、ようやく免許証が戻ってきました。

私は疲れもあって、イライラしてしまい、お金を払えばいいのではないかと先生たちに提案しましたが、先生たちは「Just wait」というばかり。これがマラウイかと思いつつ、この時ばかりはマラウイの我慢強さに脱帽でした\(\sim\sim\)/

◎らんのつぶやき

前号でもお伝えした通り、私の家は毎日朝の 2,3 時間しか水が出ません。一番困っていたのはトイレです。水洗トイレを流すには毎回 7-9ℓの水が必要で、一回ごとにバケツから水を流すのは一苦労でした。そのため、水関係の仕事をしている隊員に相談し、貯水用にバケツを設置してもらうことにしました！トイレのタンクと同様の仕組みで、水が出ている時に自動的にたまり、一定の水位になると止まるもの。それをバスルームのトイレとシャワーにつないで、水が止まった後もしばらくは水が使えるようにしてもらいました。工事の手順は次のようなものでした。

1. 配管工に電話し来てもらい、見積もりを取る。

配管工 C「人件費は 15,000MK でいいか？」私：「ちょっと高くない？（だって私の夜間警備員の 1 ヶ月の給料とほぼ同じだし…）」C「じゃあいくらならいい？」私「いくら欲しいの？」C「僕が聞いてるんだ」私「（相場が分からないし…）」いくらなの？」……このやり取りを何度か繰り返して、最終的に 7,000MK に。大工さんやそのほか職人に仕事を頼むと、毎回このやり取りがあります。

2. 空いている日時を伝え、工事スタート。

時間通りに来た試しはないので、少し早めの時間を伝えました。当日、案の定遅れてきて、資材を買うためのお金をくれと。必要な額を渡し、そこから自転車で必要物品を調達しに行きました。

3. 工事中。

C「パーツのサイズが違った、買い直してくる！ランチの後すぐ戻るよ！」私「すぐって何時？」C「1 時間で戻ってくるよ！」お昼も食べて買い物もして、1 時間では戻って来れないんじゃないかと思っていましたが、やっぱり、2 時間半後に戻ってきました。

4. 5 時間後、工事終了。

C「全部終わったから帰るよ、廊下が汚れたね。」天井には穴が開き、廊下には天井裏から落ちてきた石や砂ぼこりそのまま、踏み台に使った椅子には足跡が付いたままで帰って行きました。これもマラウイではいつものことで、今では慣れましたが赴任当初は、怒りを乗り越えて悲しみさえ感じていました。

5. 翌日。

前日帰り際に翌朝正常に作動しているかチェックしに来ると言っていたので職場に遅れることを伝え、家で待っていま

したが、C は来ません。廊下は水漏れで水浸し。時間になって電話してみると、今日は別の仕事があるからいけないと。水道が止まった後にシャワーの蛇口をひねってみると、水が出ない…。翌日も全く同じことが起こりました。

……こうして結局工事が完了するまでに 2 週間以上かかりました。

工事をしてもらっている間中、日本だったらこうなのにな～、といかに日本のサービスの質が高いかを実感していました。何百とあるコンビニやファミレスでさえも丁寧なサービスが行き届いた日本は本当に素晴らしい国だと思います。日本人でよかったーと思う瞬間でした。

